

BOAT RACER'S HOTLINE

湯浅紀香

Norika YUASA

成績は11月23日現在

登番	支部	出身	期	年齢	級	前期 勝率	通算 勝率	通算 1着	通算 優出	通算 優勝	2024年賞金	生涯賞金
5213	群馬	群馬	129	26	B1	5.19	3.26	33	1	0	1457万4000円	2897万9600円



勝率3点台から一気に5点台に跳ね上げた気鋭 初優出を決めた準優のスタートは驚愕の77!?

○オートレーサーの娘
——オートレーサーを目指したきっかけ。

二十歳の時に母親とオートレース桐生に行っただけです。その時のレースが男女混合戦でした。男子と女子が同じ条件で戦うということに魅力を感じましたね。

——父はオートレーサーの湯浅浩選手。

もちろん、父がオートレーサーということも物心ついていた頃から知っていました。オートレースにも女子選手はいますけど、オートレースの方がレーサーの数が多いいこともあって憧れました。

——オートレーサーになる前は?

高校を出てからは専門学校を経て准看護師として病院で勤務していました。中学〜高校は卓球をしていましたが、プロのアスリートを目指す思いは当時、全然なかったです。レーサーを目指すにあたって、母親は「頑張れ!」って応援してくれてたんですけど、父は同じ公営競技のレーサー。危険な面も知っているのが最初は大賛成!という感じではなかったですね。今は応援してくれているし、いい着を取った時は「あのレースはよかったです!」とか連絡もくれます。

——養成所の思い出は?

2回目で合格しました。養成所に入るまでは当然ボートに乗ったことはなくて、操縦は難しかったです。思い通りに乗れないし、成績も良くなかったですね。同期(129期)はみんなうまいですよ。藤原碧生選手とか、西岡顕心

選手、竹間隆景選手…すでに優勝している選手もいますからね。

——デビューしてからは?

3年間はあっという間でした。初勝利までは1年間くらいかかりましたし、焦りはありましたね。

——デビューから期を重ねるごとに着実に成績を上げてきた。

——25年前期適用勝率は勝率を大きく跳ね上げ、5点オーバー。夏以降の成績上昇が際立ちました。

いいエンジンが引けたことが多かったというのが一番大きいと思います。いいエンジンだと出力も違いますし、ターンもしやすい。波を越えてくれるので、道中も乗りやすいですね。プロペラを触らなくてもいい時もあるし、節を重ねるごとに「こうしたら乗りやすくなる」というプロペラの形も少しずつ分かるようになってきました。

——エンジン面以外で成績が上昇したきっかけは?

緊張はするんですけど、落ち着いて自分の旋回をしよう…とメンタル的に変えた面がありますね。前に比べると考えすぎず、慌てずにレースに行けるようになりました。以前は悩んでばかりいたけれど、前向きになったと思います。

○初優出した準優でのスタート

——初優出は8月の平和島。その準優勝戦でコンマ77から2着を確保した。

単純に起こし遅れてしまった

。出遅れてしまったのはダメだと、もちろんフルダッシュで行きました。コンマ77は、さすがに過去にもなかったと思います。スタートしてからは気持ち切り替えて、1マークはターンマークだけ見てしっかり旋回しようと思いましたが「1着は厳しいけど、回ってみたいいい位置にいた。運が良かったのもありますけどね。周りにはどうしたの?」と言われましたが「おめでと〜」…とも言われました。

——今のレーススタイルは?

以前は全速でスピードある旋回をしようという心掛けていたけど、今はまくりだけでなく差しもできるように。少しずつ艇団を割るレースもできるようになっていきます。

——湯浅紀香の狙い時は?

展示タイムが出ている時はいい傾向ですが、後はスタートタイミングですね。タイミングが揃っている時は結構いい着が取れていると思います。スリットはタイミングよりも全速で質のいいスタートをこころがけています。

——今後の目標は?

まずはA級に上がること。そして、将来的には記念レースを走りたい。もちろん、レディースチャンピオンやクイーンズクライマックスなど女子のG1レースを走ることも目標ですけど、男子選手と記念で戦いたい。今年のダービーには田口節子さん、三浦永理さん、浜田亜理沙さんが出場していた。すごいと思います。いつかはSGにも出てみたいです。

BOAT RACER'S HOTLINE

西岡 顕心 Kenshin NISHIOKA

登番	支部	出身	期	年齢	級	前期勝率	通算勝率	通算1着	通算優出	通算優勝	2024年賞金	生涯賞金
5224	香川	香川	129	23	A1	6.55	4.67	58	6	1	1919万6150円	4223万5150円



1月から飛び級でA1級に昇格する 出世の早い129期養成所チャンプ

○モトクロスから養成所チャンプ
——ポートルレーサーを目指したきっかけ。

子供の頃から父に「ポートルレーサーになれ」と言われていました。3歳からモトクロスをやっていて、ポートルレーサーを目指す上でバイクを勧められたこともあり、同じモータースポーツという父の思惑もあったと思います。ただ、僕は全くそんなつもりはなく、シンプルにバイクが好きで乗っていました。

バイクが今に役立っていることはあると思います。まずはレース勤。あとはグリップしない点ですね。モトクロスもポートルレースもグリップ走行じゃないんです。モトクロスは土の上を走るので、滑りまくるんです。そこをいかに乗りこなすか。その点は水の上を走るポートルと似ていると思います。

——エンジンの整備に関しては？
モトクロスでもエンジンは触っていましたよ。構造も根本的には同じです。ピストンが動いて力を圧縮して…。ポートルのエンジンはバイクに比べると単純ですね。バイクはもう少しややこしい。電気系統がたくさん入っていたりして。ただ、ポートルにはプロペラという要素がある。そちらの調整の方が、エンジンよりも重要だったりますから。

——養成所に入る前には、国立香川大学に入学。
選手になれないことを考えたという面もありますけど、普通に高校を出て進学したという感じです。

よ。そもそも、養成所に合格しなかったのです。2回目の受験で合格して、大学は半年通って、最終的には辞めました。レーサーになれなかった時にこれをしようという具体的な考えはなかったですね。

——養成所時代は？

楽しかったです。厳しい面もあったけど、全く苦にはならなかったですね。成績は良かったと思います。一応、養成所チャンプです。から。まあ、たまたま1号艇になって勝つことができたけど、実力的には上位何人かは変わらなかったと思います。誰がチャンプになってもおかしくなかったです。

○まくったことがない！

——デビューからここまで振り返って。

スローに入り出したのとレースに慣れてきたことが大きいと思います。やっぱり勝ちやすいですから。逆にスローでは結果を残さないといけないです。インに入れば自分のターンができたら勝てると思ってましたけど、スタートが難しいですね。質とか遅れないとか、起こしの位置とか…。いまだにそこは悩んでいます。

成績は上がっているけど、もっと早くA1級にはなれたのかな…とは思っています。同期の藤原碧生選手とかはすでに活躍していますからね。

——近況は6着回数が多い。

確かにあまり大敗はしないけど、いい意味でも悪い意味でも中間着が多いかな。2、3着が多い

と思います。もっと伸びを付けることができてスタートの質が良くなれば、1着が増えてもっと勝率を上げることができるはずですね。

——今後の課題。

僕はほとんどまくったことがないんです。スタートが行けてないのが課題ですね。自分はタイムイングの数値を求めるとタイプです。

——スタート力の向上が課題？

自分はむちゃくちゃフライイングが多い。師匠は片岡雅裕さんなんですけど、すでに師匠の倍以上フライイングを切ってます。11月18日時点で片岡の通算Fは3本、西岡は7本。師匠は本当にすごい。異常です。それでいて遅くもない。もちろん、道中のターンもすごいんですけど。

○今後の目標

——1月からはA1級に昇格。

GIの出場も決まりました(25年1月江戸川周年)。夢の舞台ですけど、そこに定着する選手になる。SGを常に走る選手になることは大前提です。そしてSGを勝つ。最終目標はグランプリを勝つことです。

——香川支部でグランプリを勝つたのは安岐真人さん、ただ1人。

そうですね。三寫誠司さん、森高一真さん、そして片岡雅裕さん。チャレンジカップを勝った選手は多いんですけど。

今後は勝率をもっと上げてダービーに出られるように、SGの出場権をまず取りたいですね。